

委員会審査

各常任委員会において、付託された議案などを審査しました。
質疑・答弁の一部を掲載します。

総務常任委員会

質疑 市税条例等の改正で市民税の非課税対象範囲が広がったが、その中の単身児童扶養者とは。

答弁 児童扶養手当の支給を受けている児童の父、または母のうち、現に婚姻をしていない者、または配偶者の生死が明らかでない者をいう。

質疑 移住支援金事業費補助金の内容は。

答弁 東京への一極集中の是正や地方の担い手不足への対応を含めた移住、定住を促進するためのものである。

対象者は東京23区に5年以上在住した人、または東京圏に5年以上在住し東京23区内の企業に5年以上勤務した人で、本市に転入し、移住希望者向け支援サイトに掲載されている中小企業等の求人情報に基づき就職をした場合に支給する。



移住支援金事業のお知らせ

市民経済常任委員会

質疑 まちなか商店リニューアル助成金の補正額の積算根拠は。

答弁 申し込み全体件数のうち、仮受付分を含めた書類審査中の件数や交付決定済みの補助申請額などから積算したもの。

質疑 ぐるりんバス購入費の補正理由と走行する路線はどこか。

答弁 補正理由については、申請していた県の補助金を受けられる見通しが立ったため、老朽化による修繕の頻度が高い車両を買い替えるものである。

走行する路線は観音山線で、勾配があるため他の路線よりも消耗しやすいと思われる。



市内を循環するぐるりんバス

教育福祉常任委員会

質疑 小学校の外壁改修工事は、何校予定しているか。

答弁 約3校を予定している。

質疑 高崎市指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例制定の目的は。

答弁 児童福祉法施行令の改正により、平成31年4月1日に県から中核市へ権限が移譲されたことに伴い、児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所を開所する際の人員、設備、運営基準を定めるものである。なお、人員、運営基準は、これまでの県の条例や国の省令から変更する点はないが、設備基準は、本市独自の基準を定めている。



障害児への支援を行う放課後等デイサービス

建設水道常任委員会

質疑 浜川運動公園クラブハウスの利用対象者と屋上の利用は。またテニスコートの仕様であるセミハードコートとは。

答弁 クラブハウスは、来場する全ての人が利用できる施設であり、屋上は観覧席としての機能も備えている。セミハードコートは、硬式テニスとソフトテニス双方で利用可能であり、高崎市テニス協会および高崎市ソフトテニス連盟と相談の上、決定した。

質疑 新町駅東駐車場の定期駐車供用の終了による、定期駐車場利用者への影響は。

答弁 新町駅北口周辺に、民間の駐車場が約300台分あり、契約率が5割程度のため、東駐車場が廃止になっても、利用者への影響は少ないと思われる。



供用が終了となる新町駅東駐車場



小・中学校における夏の暑さ対策
交通安全対策
根岸 赴夫 (ねがし けいすけ) 氏 (新風会)

質問 部活動や放課後の水分補給など暑さ対策にどう取り組んでいくのか。

答弁 部活動でも暑さ指数を考慮し、活動時間の短縮や休憩時間の確保およびこまめな水分補給を行っている。また、経口補水液や保冷剤を常備するなどの対応もしている。さらに、熱中症による事故防止の注意喚起として、活動時間中の予防や適切な対応について全教職員で再確認している。今後も子どもたちの健康面を第一に考え対応したい。



放課後や長期休業中の子どもの居場所
風しん対策
小野 聡子 (おの せとこ) 氏 (公明党)

質問 放課後子ども教室の現状と地域人材の活用は。また、長期休業中などの子どもの居場所の確保は。

答弁 全ての小・中学校区で放課後や土曜日に学校の教室などで学習会を行い、子どもたちの学力向上だけでなく、安心して過ごせる居場所になっている。また、各学校では地域の人材を把

握し、栽培実習、昔遊びなどの授業補助者や教育相談技術などの教員研修の外部講師として活用している。今後も保護者や地域の協力を得ながら子どもの居場所の充実に努めていく。

質問 国の風しん対策事業の内容と周知方法は。また、本市の既存事業の状況は。

答弁 予防接種を受ける機

質問 交差点での安全確保の徹底が急務であるが、本市の対応策は。

答弁 本市では、道路の外側線や横断歩道の路面標示のほか、カーブミラーや街路灯を設置している。また、通学・通園中の事故を未然に防ぐため、車止めやガードレールの設置も考えている。今後も子どもから高齢者までの安全な交通環境を確保するため、警察や関係機関と効果的な交通安全対策に取り組むたい。



子育てなんでもセンター
事故のない高崎市を目指して
中村 さと美 (なかむら さとみ) 氏 (公明党)

質問 子育てなんでもセンター内の託児ルームは多くの利用があるが、さらなる託児施設充実の考えは。

答弁 需要が多く一部利用しにくい状況であるが、託児スペースの問題があり、保育室の区画を工夫することで対応したい。

今後の対策として、この託児ルーム周辺の空き家を分室にする方法や群馬地域など子どもが増えている地



子育てなんでもセンター託児ルーム

会がなかった40歳から57歳の男性を対象に、抗体検査と予防接種を無料で実施し、医療機関や広報高崎、駅の大規模ビジョンなどで周知

ている。本市では、本年度から出産後の女性などにも対象者を拡大し、対策を積極的に推進している。



質問 高齡運転者の事故原因としてブレーキとアクセルの踏み間違いが多いが、後付で装着できる安全装置費用への助成の考えは。

答弁 高齡者の自動車事故防止のため、安全に運転するための支援も必要だが、後付装置が安定して作動するかなど装置の信頼性を検証する必要があると考える。今はまだ購入費用の補助制度の導入については判断する段階ではないと捉えている。



交通弱者への外出支援
若者の貧困と奨学金制度 (日本共産党) 氏 (日本共産党)

質問 浜川町北部地域にぐるりん大八木線と白川線が延伸したが、その路線別利用状況は。また、両路線の今後の方針は。

答弁 延伸箇所における変更当初1カ月間の停留所別乗降数は、大八木線が4カ所の停留所で183人、白川線が6カ所で23人である。本年5月末時点の路線別利用状況は両路線とも増加しており、一定の効果が現れている。乗り継ぎの課題などもあることから、今後も定期的に利用状況の調査や

質問 若者の貧困状況を考慮し、貸与型から返済免除のある奨学金制度に発展させる考えは。

答弁 本市の奨学金制度は、基金から貸与した奨学金が卒業後返済され、再び基金に繰り入れ、次世代の学生に貸与するといった経済状況に左右されない制度である。今後も多くの学生が、経済的な理由で進学を断念しないよう継続したい。

